

日本健康心理学会メールマガジン No.36



2015年7月22日 第36号

Contents

- 1) 学会からのお知らせ
- 2) 健康心理学コラムvol.31 文教大学 城佳子先生

1) 学会からのお知らせ <http://jahp.wdc-jp.com/>

- 学会からの重要なお知らせ
- 「健康心理学研究」およびヘルスサイコロジストの電子化について

昨今、学術誌の電子化は、どの学会におきましても時代の流れとなっており、学術振興会等の補助金なども学術誌の電子化が条件のようになっています。そこで、本学会でも、本年度5月に開催されました第3期の理事会におきまして、機関誌「健康心理学研究」およびヘルスサイコロジストの電子化が本年度活動計画の中で示され、承認されました。来る機関誌「健康心理学研究」のVol.28(2015年度)からは、No.1(7月末)、No.2(12月末予定)、およびSpecial Issue(2月末予定)が電子化されます。

公開方法は、国立研究開発法人科学技術振興機構から提供されるJ-STAGEの電子媒体が基本になり、No.2の発行後には、No.1とNo.2の合冊として発行して郵送する予定です。

なお、Special Issueに関しては、電子媒体のみの発行となります。ヘルスサイコロジストは、会員への一斉メールにて添付配信となります。詳細は、改めてお知らせしますが、ご理解のほどよろしく願います。

J-STAGE <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/-char/ja/>

■第4期の各常任理事の役務をご報告します

- 常置委員会
機関誌編集：嶋田洋徳 国際：津田 彰
研究推進：島井哲志
資格認定：鈴木 平 研修：山田富美雄 財務：田中共子
広報：大野太郎 本明記念：嶋田洋徳

- 特別委員会
記念誌出版：島井哲志 ACHP 2016：野口京子
資格制度：山田富美雄
倫理指針検討：鈴木 平 学会活性化：大野太郎

- 事務局関連
事務局長：岸 太一 事務局次長：山蔦圭輔

- 各委員のメンバーは、正式に確定後、ホームページに掲載します。

■編集委員会より

- 英文翻訳助成金
機関誌「健康心理学研究」掲載される英論文に、英文翻訳助成金を支給いたします。

補助金：2016年3月11日(金)までに受理された【原著】英論文、1論文につき50,000円

助成数：6論文まで、多数の場合は受理順

投稿方法：学会HP電子投稿システムより、通常の投稿論文と同様に投稿してください。

■日本健康心理学会第28回大会(9月5日・6日：桜美林大学)速報(大会準備委員会より)

皆様のご協力により、現在、事前参加申し込み349名、ポスター発表151件、各種シンポジウム18件、ワークショップ8件、招待講演、教育講演、公開講座などの内容でプログラムを作成しております。皆様のご参加を心からお待ちしております。

<http://jahp.wdc-jp.com/conf/28th/infomation.html>

■第2回ヤングヘルスサイコロジストの会シンポジウム

日程・会場：9月4日 桜美林大学

http://jahp.wdc-jp.com/pdf/2015_younghealth.pdf

- ACHP 2016 申込みが開始されました
<http://jahp.wdc-jp.com/english/achp2016.html>

- 近畿大学総合社会学部心理学専攻教員公募情報
http://jahp.wdc-jp.com/pdf/solicitation_150706.pdf

2) 健康心理学コラムvol.31

「腰痛の難治化と心理・社会的要因」

(文教大学人間科学部 心理学科 城佳子先生)

腰痛は、年齢・性別を超えて多くの人が経験する身近な痛みであるといえるでしょう。

2013年の厚生労働省『国民生活基礎調査』によると、腰痛は病気やけがなどによる自覚症状のうち男性で1位、女性で2位でした。

腰痛は、画像や血液検査などで異常が見つかる特異的腰痛と、検査に異常の認められない非特異的腰痛に分けられます。非特異的腰痛は腰痛全体の85%を占め、いわゆる腰痛症と呼ばれています。

いわゆる腰痛症の快復の遅れには、心理的な要因が関与していることが注目を集めるようになってきています。

そして、治療には器質の変化だけでなく、痛みを引き起こしている心理的要因やその人を取り巻く環境因子までも考慮する必要があるという認識が広がってきているものの、治療に心理的介入を取り入れる試みはようやく緒に就いたばかりで、そのような観点からの科学研究もきわめて少ないのが現状です。

腰痛に対する恐れと回避行動とが痛みを難治化させることを説明するFear-avoidance modelに基づき、筆者らは腰痛経験のある大学生を対象に調査を実施しました。

その結果、痛みへの過度の注目、治療やリハビリに対する無力感、腰痛関連の知識や情報の不足、日常生活への影響に対する懸念などの要因が、痛みに対する恐れや行動の回避と関連していることが明らかにされました。

個々の心理的状態に合わせた腰痛治療・介入の実現に貢献できるような心理学の立場から研究を推進していきたいと思っています。

研究内容について、第28回大会でも発表予定です。興味を持っていただいた方は是非お立ち寄りください。

城佳子・見山明・関根星介(2014)腰痛難治化に関連する心理的要因の検討 日本健康心理学会第27回大会 P2-19

城佳子・関根星介(2015)大学生の腰痛に対する認知パターンと腰痛難治化の関連の検討 日本健康心理学会第28回大会 印刷中

日本健康心理学会広報委員会

<http://jahp-public.blogspot.jp/>

メールマガジンの配信停止、アドレス変更については下記アドレスまで。

日本健康心理学会事務局 <jahp-post@bunken.co.jp>

メールマガジンへのご意見・ご感想については下記アドレスまで。広報委員会 <jahp-ML@bunken.co.jp>

過去のメールマガジンは、こちらからご覧いただけます
<http://jahp.wdc-jp.com/health/health1.html>